



平成24年度 石川県図書館大会 記念講演

演題「新しい社会の到来と図書館の役割」

講師：大串 夏身氏（昭和女子大学人間社会学部教授）

平成 24 年 11 月 7 日（水）、白山市鶴来総合文化会館クレインで「石川県図書館大会」が開催されました。「図書館の力・本の力～地域と共に考える～」という主題のもと、図書館職員や読書会会員、子ども文庫関係者など 223 名が参加しました。

記念講演では、昭和女子大学人間社会学部教授の大串夏身氏から「新しい社会の到来と図書館の役割」という演題でご講演いただきました。

現在、コンピュータ情報通信ネットワークが社会の基盤となって、知識・情報の交流から新しい知識・情報が次々と生まれる時代が到来しつつあります。この「知的で創造的な社会」における図

書館の役割として、大串氏は「生きる人を育てる、支える」、「知的で創造的な地域社会づくりに貢献する」ことを挙げられました。

そのために図書館は、0歳からの読書の推進や発達段階に応じた働きかけ等、本を読むことを通じて人の育成をおこなうことや、情報ネットワークへの対応をおこない、誰でもが必要なときに必要な情報を入手できる地域の情報センターをつくるのが重要であると話されました。

最後に「図書館は日本の地域社会にとって、ますます重要な施設となる、そのためには一層の努力が必要」と述べられました。

目次

- 1 頁 石川県図書館大会記念講演報告
- 2 頁 石川県図書館大会第1部会報告 / 第2部会報告 / 「図書館活用講座」出張所②
- 3 頁 加能史料はいま / 『石川県史資料 近世篇(12) 諸士系譜 五』刊行 / 資料紹介⑮
- 4 頁 第2回ビブリオバトルのチャンプ本は？ / 福岡伸一氏講演会 / 石川県子ども読書月間のお知らせ

— 第1部会 —

「被災地で本がつなぐもの
～女川町の図書室復興の取り組み～」

第1部会では、宮城県女川町教育委員会の元木幸市氏より、東日本大震災によって失われた女川町図書室の復興しつつある姿が紹介されました。

平成23年6月、まず「女川ちゃっこい絵本館」が開館し、平成24年3月には「女川つながる図書館」が開館しました。「女川つながる図書館」は絵本を中心とした図書館づくりをコンセプトにしているようですが、これは、絵本が子どもから大人まで、家族の誰もが楽しめるものであるからだそうです。

また同年4月からは移動図書館も運行しはじめ、町外の仮設住宅に住む女川町の住民も本を借りることができるようにしているとのことでした。

「被災地における図書館の最大の役割は何か」という質問には「心の復興を果たさせる場所が図書館である」とのお話がありました。図書館が地域住民をつなぎ、心のよりどころにもなる場所であると改めて認識させられました。

— 第2部会 —

「子どもと本をつなぐ場所
～公共図書館・家庭・学校図書館～」

まず、金沢市立玉川こども図書館の山本真理子氏から、子どもの年齢別に行っている事業や学校支援について報告がありました。また、金沢の工芸品など図書以外の郷土資料を収集して展示するライブラリーミュージアムの紹介がありました。

次に、石川子ども文庫連絡会の志村由紀子氏が家庭文庫の誕生から現在までの全国的な動きと図書館や子どもを取り巻く環境の変化について話されました。そして、子どもにとって今日の文庫は、



本を借りるだけでなく、信頼できる大人がいて安心できる場所であるといった役割について述べられました。

白山市立蕪城小学校の中條敏江氏は、学習指導要領の改訂により変わってきた学校図書館の教育活動や国語教科書について説明されました。学校図書館は、子ども達が自ら問題を解決するための技術を習得する場として重要な役割を担っていると実感させられた報告でした。

その後、パネラーの3人に「ケータイ小説を朝読書の時間に読ませてもいいのだろうか」などの質問が寄せられ、回答や意見交換が行われました。

「図書館活用講座」出張所 * 図書館のしごと ② 「遠隔地サービス」を知っていますか？

石川県立図書館では、なかなか来館できない遠方の方のために、お近くの図書館で県立図書館の本の「受取」・「返却」ができる「遠隔地サービス」を行っています。

前回の「相互貸借」の説明をご覧になった方は、「相互貸借」と「遠隔地サービス」とどこが違うの？と疑問に思うかもしれません。遠隔地サービスは市町立図書館を介さず、県民のみなさんがインターネットから直接県立図書館に貸出申込み（予約）ができます。

遠隔地サービスを利用するには、県立図書館のカードが必要となります。利用登録は郵送による

申込みも受付けています。詳しくはホームページをご覧ください。

またインターネットをお使いにならない方でも、県立図書館で借りて近くの図書館で返すこともできます。

実際に見て借りる本を選びたいけれど、返すときは近くがいいという方は、県立図書館で借りる際に一言いってくだされば、簡単な手続きでお近くの図書館で返却できます。お気軽にどうぞ。

(※遠隔地サービスは金沢市以外の方が対象です。金沢市の方は県立図書館で直接、貸出・返却をおこなってください)



平成24年度第2回講座
『加能史料』はいま 開催
平成24年12月9日(日)

今回は富山高等専門学校教授の瀬戸薫氏をお迎えし、「京都と堺、二つの幕府～畿内情勢と加賀・能登～」と題して、ご講演いただきました。

瀬戸氏は石川県内の自治体史編纂などに尽力するとともに、本館の目玉事業でもある『加能史料』の編纂委員として事業の推進に取り組まれています。

講演では、戦国期における畿内近国の政治情勢を、京都の幕府に対抗した「越中」と「堺」の政権を軸に、室町幕府の分裂という視点から紹介されました。特に加賀・能登をはじめとする北陸の守護勢力を動員して京都の奪回を画策した「越中

公方」足利義植の事蹟や、加賀一向一揆に内紛が勃発する背景に京都と堺の両政権の対立があったことなどを挙げられました。



講師の瀬戸薫氏

石川県史資料 近世篇(12)
諸士系譜 五 刊行

去る平成24年11月、『石川県史資料』の近世篇第12巻「諸士系譜五」を発行しました。

「諸士系譜」(全20巻)は、天保3年(1832)から天保末年頃にかけて加賀藩士津田信成によってまとめられ、加賀藩諸家の系譜と石高や役職など基本的な情報が記されています。今回は金沢市彦三町の地名の由来となった不破彦三家などが記載された巻之十五から巻之十七までを収録しています。県民のみならずには県立図書館のほか、県内の各公立図書館でもご覧いただけます。

【お問合せ】石川県立図書館 史料編さん室
電話：076-223-9579
FAX：076-222-2531
Eメール:shiryo@pref.ishikawa.lg.jp

資料紹介⑮

特殊文庫「河崎文庫」

河崎文庫は、主として河崎家17代六右衛門則翼(雅号：静山)が筆写した『御触付要条』『大聖寺松平弘斉公行状略』等の文書、『廿二史劄記』『春秋左氏傳』等の漢籍、『日本政記』『勢免天話草』等の国書類約390点から成ります。

河崎家は代々大聖寺藩に仕えていました。則翼は武芸に優れ、槍御指南役、御小姓組等を勤め、その傍ら自宅で門弟に史学や漢学の指導にあたりました。その蔵書は「静山文庫」と命名され、伝えられてきましたが、昭和9(1934)年9月の大聖寺大火にあい、大部分が焼失し、昭和45(1970)年に県立図書館へ寄贈されました。

なかでも、『論語集註』上下2冊は慶安3(1650)年に刊行されたもので、江戸初期の『論語』和訓の成立の研究に重要な資料です。元金沢工業大学教授・近藤啓吾氏は、寛文4(1664)年に刊行された道春(林羅山)点の『論語集註』と比較すると、訓や助辞が簡素であることから、道春点の定本に至る過程を示すものではないか、と推測されています。(近藤啓吾著「河崎文庫本『論語集註』(1-20)私見」※手稿)



河崎文庫本『論語集註』

近年、則翼による写本が発見され、軍事関係の『本藩軍役内考』『兵法問答』『緯糸』、馬術関係の『大坪流秘書』『夢想要馬』等9点を平成23年度に購入し、河崎文庫に追加整理しました。

第2回ビブリオバトルのチャンプ本は？

11月18日(日)図書館活用講座「第2回知的書評合戦ビブリオバトル in 石川県立図書館」が開催されました。テーマは「恋」で、5人の発表者が「恋」に関するおすすめ本について紹介しました。チャンプ本に選ばれたのは、池田良治さんが紹介したドストエフスキーの『白痴』でした。池田さんは高校時代の本との出会いや最後は本を読み終えるのが惜しくなったことなどを熱く語りました。



が「恋」に関するおすすめ本について紹介しました。チャンプ本に選ばれたのは、池田良治さんが紹介したドスト

エフスキーの『白痴』でした。池田さんは高校時代の本との出会いや最後は本を読み終えるのが惜しくなったことなどを熱く語りました。

第3回は3月17日(日)午後2時から石川県立図書館1階ライブラリーサロンで開催されます。今回は、高校生が発表者する高校生大会です。テーマは「わたしがハマった本」です。ぜひご期待ください。

福岡伸一氏講演会のお知らせ

演題：「福岡ハカセの本棚」

日時：3月10日(日)午後2時～3時30分

会場：石川県立図書館 4階 第1研修室

対象：一般(申込不要)

問合先：企画協力グループ(Tel 076-223-9581)

※関連展示「福岡伸一の世界」展を3階閲覧室にて
2月1日(金)～3月28日(木)に開催します。

★福岡伸一氏プロフィール

生物学者。1959年東京都生まれ。京都大学卒。米国ハーバード大学研究員、京都大学助教授などを経て、青山学院大学教授。2007年に発表した『生物と無生物のあいだ』(講談社現代新書)は、サントリ一学芸賞および中央公論新書大賞を受賞し、ベストセラーとなる。その他、『できそこないの男たち』(光文社新書)、『世界は分けてもわからない』(講談社現代新書)、『動的平衡』『フェルメール 光の王国』(木楽舎)、『遺伝子はダメなあなたを愛してる』(朝日新聞出版)、『せいめいのはなし』(新潮社)、『ルリボシカミキリの青』『生命と記憶のパラドクス』(文藝春秋)など著書多数。幼い頃から幅広い読書が続けてきた「本の虫」でもあり、その読書歴を明らかにした最新刊『福岡ハカセの本棚』(メディアファクトリー新書)を上梓した。

**石川県子ども読書月間のお知らせ**

4月23日は「子ども読書の日」です。石川県公共図書館協議会では、この日から1ヶ月を「石川県子ども読書月間」と定め、県内の図書館が子どもの読書の推進のために、様々な取り組みを行っています。

県立図書館では、期間中に新美南吉の生誕100年を記念して勝尾金弥氏の講演会と新美南吉に関する資料の展示を行います。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

演題：「南吉のふるさとによせる想い」

講師：勝尾金弥氏(児童文学者)

日時：4月20日(土)午後2時～3時45分

※午後2時～2時15分「石川県子ども読書月間」のPR用に募集したイラストの表彰式があります。

会場：石川県立図書館 2階 県民交流室

対象・定員：一般・70名

申込・問合先：子どもの本のひろば(Tel 076-223-9587)

★勝尾金弥氏プロフィール

1927年金沢市生まれ。金沢大学教育学部卒。市内中学校教諭を経て、愛知県立大学教授、梅花女子大学教授を歴任。愛知県立大学名誉教授。日本児童文学者協会賞、日本児童文学学会賞、中日文化賞、金沢市文化賞など受賞。『かつおきんや作品集』全18巻(偕成社)、『森銃三と児童文学』(大日本図書)、『中野重治と児童文学』(能登印刷出版部)、『伝記児童文学のあゆみ』(ミネルヴァ書房)『人間・新美南吉』(大日本図書)ほか多数。

**「石川県子ども読書月間」のPR用
ポスターに使用するイラストを募集します。**

図書館や、読書の楽しさを伝える作品をおよせください。

応募方法：画材、大きさは自由。どなたでも応募できます。

未発表の作品に限ります。

提出先：石川県立図書館またはお近くの図書館まで、応募用紙をそえて提出ください。

締切：3月14日(木) 必着

問合先：企画協力グループ(Tel 076-223-9581)

詳細は、当館ホームページ、または県内公共図書館に設置したチラシをご覧ください。



昨年度大賞作品